

希少植物等保全対策検討委員会（第7回）議事概要

日 時	令和8年2月12日（木） 10:00～12:00
場 所	津野町役場本庁舎（高岡郡津野町永野225番地1）
出席者	石川愼吾委員長（高知大学名誉教授） 重山陽一郎委員（高知工科大学 システム工学群教授）【WEB参加】 中澤純治委員（高知大学総合科学系地域協同教育学部門教授） 前田綾子委員（公益財団法人高知県牧野記念財団主任研究員） 鴻上泰委員（土佐植物研究会会長） 谷脇幸秀委員（津野町商工会会長） 馬場誠委員（一般財団法人天狗荘（カルストテラス館長）） オブザーバー 大崎陽子津野町観光推進課長

【委員の発言】

事務局	議事（1）希少植物等の保全に向けた取組等について説明 ○令和7年度中に実施した植生回復調査結果の報告 ・播種した6種のうちリンドウを除く5種の発芽を確認（うち4種で開花結実を確認）。 ・地点毎の植被率の差は土壌硬度の違いにより生じている可能性がある。 ・植生の回復が著しい1地点を除き令和8年度も継続して植生回復調査を実施する。 ○令和7年度中に実施した移入種モニタリング結果の報告（資料1） ・12地点で4種計22個体（昨年度は22地点で5種計111個体）の移入種を確認し、駆除を実施した。 ・前年度より地点数は半減、個体数は80%減。 ・利用者に付着して持ち込まれたと見られる移入種が確認される。 ・令和8年度も継続して移入種モニタリングを実施する。 ○安全対策等について（資料2） ・令和7年度中に施工予定の階段工について工事内容を説明。 ・工法選定にあたっては関係者から意見をいただき景観等に配慮した検討をしている。 ・R8.3末施工完了予定。
委員	⇒移入種の除去について、探勝路沿いにヨモギ等が繁殖しており自転車通行の支障にもなっている。除去等できないか。

事務局 委員長	⇒対応を検討する。 ⇒アスファルト舗装への悪影響も懸念される。維持管理として対応する必要がある。
委員長 事務局	⇒安全対策について、施工箇所以外にも危険性がある場所はあるのか。 ⇒優先度が高いのはこの1箇所のみと考えている。
事務局 (受託者)	○作成中の植生図案について（資料3） ・植生調査によりミヤコザサが高密度で生育しているところは種の多様性が低く、指標種の生育適地となっていないことが示唆された。 ・過去の火入れについて履歴を整理し範囲を可視化した。 ・ミヤコザサの最大高、工事による改変、火入れ履歴等を踏まえ草原を5つの分類に区分した。
事務局	○維持管理草刈りの試行について（資料4） ・これまでの検討委員会で草原の維持管理が課題と示されていたことを受け、令和7年11月20日に津野町、ボランティアの協力を得て試行的に草刈りを実施した。 ・場所はドリーネ南側の約450m²の範囲。 ・刈り取ったエリアは来年度以降モニタリングを行う予定。
津野町	○今年度の火入れについて ・令和8年3月29日に実施予定。（予備日令和8年4月12日） ・昨年度までは予備日を1週間後に設定していたが気象条件が改善しない場合が多かったため2週間空けて予備日を設定した。 ・林野火災注意報運用の関係もあり実施条件は年々厳しくなっている。
委員長	⇒植生図に関して補足する。 去年の検討委員会で要望を出しそれに基づいて作ってもらった。環境影響緩和措置を検討するためにきちんとした情報が必要ということで作ってもらっている。今回の探勝路は整備済で、回避は不可能であるため代替措置を検討することとなるが、その基礎資料として必要。 また火入れが毎年確実に実施できれば一番良いのだができなかったときにどういう保全措置をするのか検討するうえでも役立つ情報である。
委員	⇒火入れの履歴とミヤコザサの生育度合に関連性が見られないがどうか。

事務局 (受託者)	⇒地形的な要因（尾根部、凹凸部など）があると考えられる。
委員	⇒草刈りの試行エリアについて来年度モニタリングするというのは分かったが将来的にどうするのか。
事務局	⇒現状では未定だが、草刈りによる保全効果を測るうえで再度刈り込みが必要なのかも見ながら判断したいと考えている。
委員	⇒火入れについて、昔は道路の下まで草原だったが、現在は一部が樹林化している。火入れの際の燃え移りなどを考慮しても伐採して草原化した方がいいのでは。
委員長	⇒樹林を草原化するにはかなりの労力がかかる。よりよい場所に戻していく保全措置としては、伐採すれば完璧に近いものとなるが、代替措置としてやりすぎなのではとの意見もあるかと思う。 今後検討が必要と思うので、委員から事務局へ過去の草原域の資料を改めて送ってほしい。
委員長 事務局 (受託者)	⇒ススキ群落で指標種の数が少なかった理由は何なのか。 ⇒理由は判然としない。ススキが極端に多いところは何か他の植物の生育に適さない要因があってそれが影響しているのではないか。
委員長	⇒植生図について、地形的な要素（凹凸や石灰岩の露出等）も加味して検討する必要があるのではないか。
事務局	⇒検討する。
委員	⇒維持管理の草刈りについて、大学に相談をしてもらえればこういった方面に関心のある学生を募ることができるかもしれない。単純な労働力だけではなく、この作業にどのような意味があるのかレクチャーしてもらう必要はあるが。
事務局	⇒検討する。
委員長	⇒将来的には津野町が事務局となって天狗高原のファンクラブのようなボランティア集団を作って、草刈り等の活動をやっていただけたら望ましい。 そういった活動を通じて天狗高原の認知度を上げていけたら。 具体的に、作業場所の候補はあるのか、また刈り取りを行う時期としては秋になるか
事務局 (受託者)	⇒決まっている場所はないが、基本的に火入れの範囲から外れたところで検討したい。バリアフリー道から見晴台に上がってくる途中の草地など。 時期としては種子が散布された後の11月くらいが一番いいのではないか。

委員	⇒その場合、大学への説明会を行うなら9月くらいとなる。
委員	大人数になるならバスの手配など必要。
委員長	⇒この件については引き続き、事務局と津野町で原案を練ってもらいたい。
事務局	⇒了承。
委員	⇒山焼きについて、山焼きと言えば山頂から火をつけて下へ延焼させるのが常識と考えているが全国的に見てもやり方は同じか。
委員長	⇒私の知っている限りだが、上からゆっくりと焼いたほうが安全かつしっかり焼ける。
委員	⇒本年度まで牧野植物園が津野町との連携協定で実施していた草刈り作業について、津野町が主体的に行うなら牧野植物園は引き続き協力できるかどうか。
津野町	⇒これまで、オオハンゴンソウの防除活動の代わりにサクラスミレのエリアの草刈りをというような経緯の議論があったかと思う。町内他課との調整も必要なため引き続き協議を進めていきたい。
委員長	⇒草刈りは継続しないと意味がないためよろしく頼みたい。
事務局	○議事（２）その他 ・今後の委員会の開催予定について、来年度も今回と同じ時期に開催させていただきたい。 ・次回開催時には、継続して実施するモニタリングの結果や草刈りの状況などを報告する予定。
委員長	■まとめ ・植生図について、地形や石灰岩の露頭の情報を加味したうえで作成を行うこと。 ・草刈りの試行について、事務局と津野町で大学生と連携しての実施を検討していくこと。 ・探勝路の利用に悪影響を及ぼしうるヨモギ等については、適切に対応すること。 ・火入れについて、3月29日で実施予定（予備日4月12日）とのことであり、お願いしたい。